

経営比較分析表（令和5年度決算）

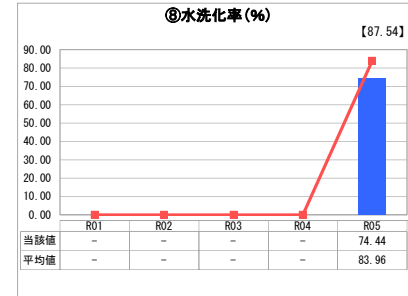
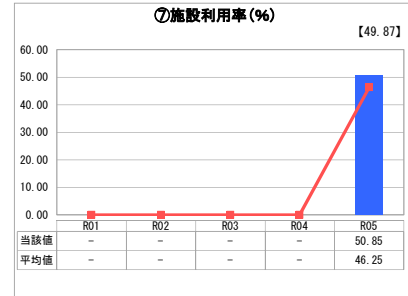
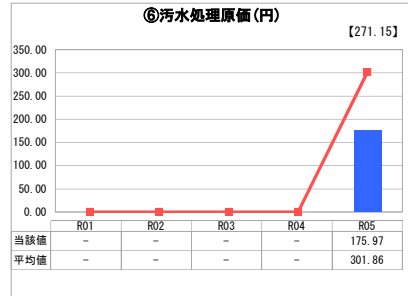
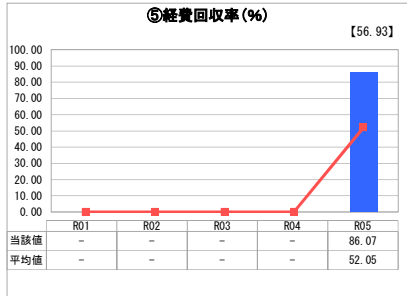
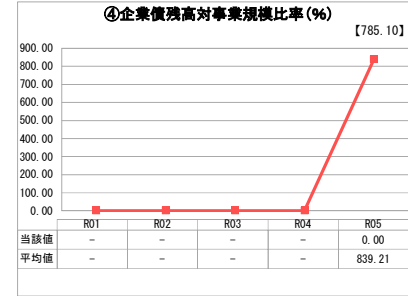
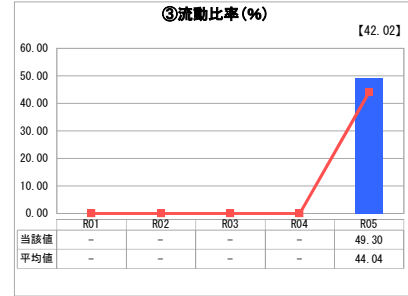
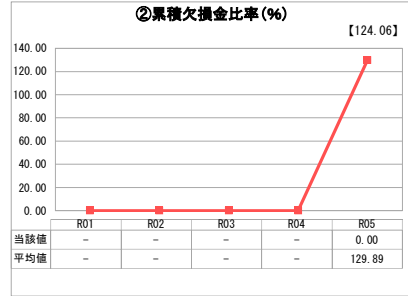
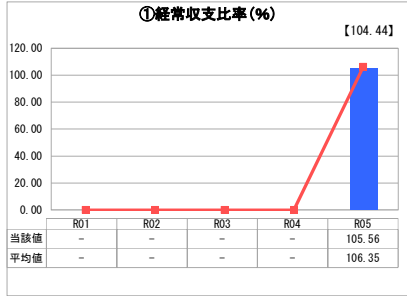
和歌山県 上富田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	77.18	30.21	107.75	3,157

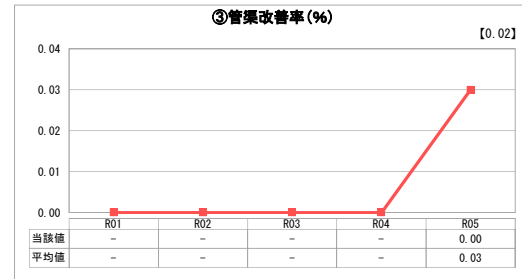
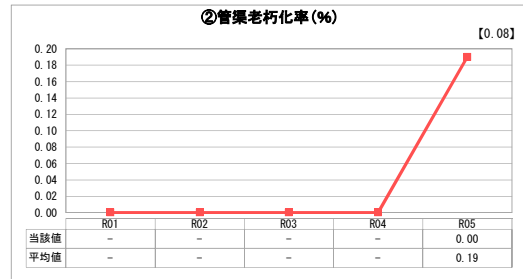
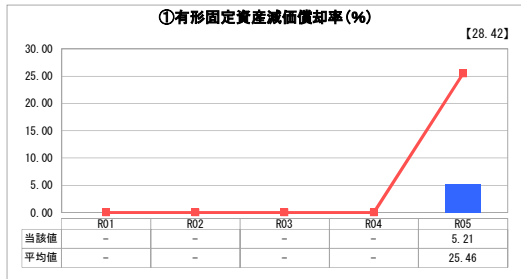
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
15,720	57.37	274.01
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,730	1.14	4,149.12

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①について、100%を超えているが、一般会計補助金に依存しているため使用料収入の増加が課題である。②について、欠損金は発生していない。安定した使用料収入の確保に取り組み必要がある。③について、償還金に係る流動負債は一般会計補助金等を充てている。④について、当該数値は0%となっている。⑤と同様に、償還金に要する額は一般会計が負担している状況である。⑥について、現在使用料収入だけでは補えず、不足分を一般会計補助金で補っている。引き続き、維持管理費用が増加することが考えられるため、使用料収入の増加が課題である。⑦について、類似団体値より低くなっている。⑧について、類似団体と比較してもあまり大きな差はなく平均的な数値となっている。施設の改築等に当たっては将来の汚水処理人口の減少等を踏まえ適切な施設規模を検討していく必要がある。⑧について、安定した使用料収入の確保のため、水洗化促進の啓発が課題である。

2. 老朽化の状況について

当事業の着手時に埋設した管渠で現在29年が経過しているが、管渠の耐用年数が50年であることを考えると、老朽化による管渠改善・更新は現時点においては必要ないものと思われる。しかしながら、処理施設・設備の老朽化は相当進んでおり、修繕を行い対応している。限られた財政の中、平成29年度に実施した機能診断調査・最悪整備構想に基づいた効率的な処理施設・設備・管渠等の改築・更新が今後の課題となる。

全体総括

当事業は、市ノ瀬南岸地区を皮切りとして平成6年に事業着手し、平成12年に市ノ瀬北岸地区、平成14年に生馬地区、平成15年に岩田・岡地区、田熊地区が供用開始となり、平成16年に事業完了となった。5地区の全整備面積は114ha、現在の水洗化率は、前年度と同様の74.4%となっている。事業は完了しているため新規の下水道管理施設の工事費はかからないものの、処理施設や設備の老朽化に伴い、維持や更新に係る費用の増加が予測される。令和5年度には公営企業法を適用し企業会計となったため、経営状況が明確になることから、適切な各処理施設・設備等の更新や削減を行い経営健全化を図る必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。